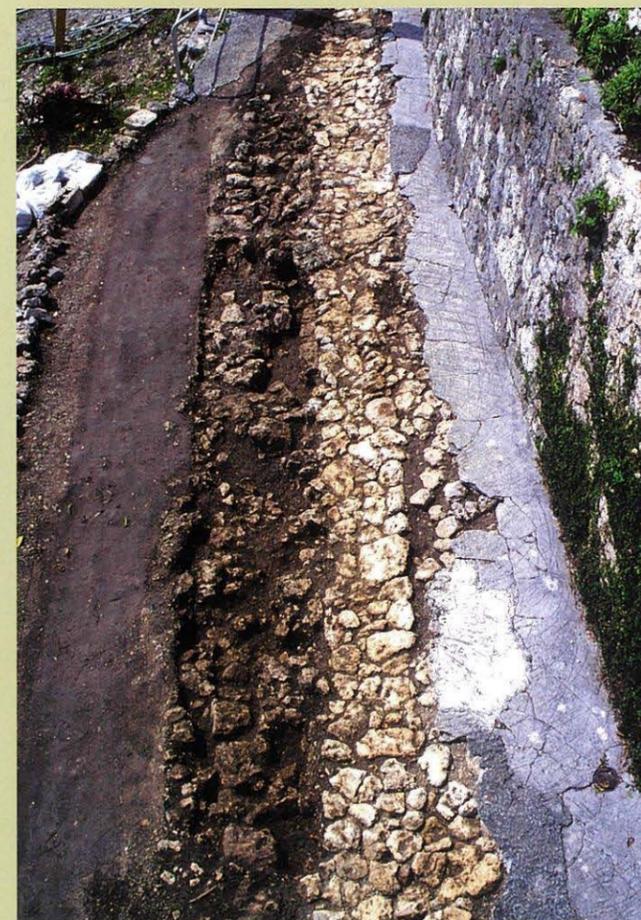


写真9 調査の様子（第三回調査）

首里旧金城村跡

金城西線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告



2007年5月

那覇市教育委員会

発行／那覇市教育委員会 〒900-8553 沖縄県那覇市樋川2-2-8
電話 (098) 891-3501

編集／那覇市教育委員会文化財課
印刷／(株)国際印刷

首里旧金城村跡発掘調査概要報告

1 はじめに

「首里旧金城村跡」の所在する首里金城町周辺は、首里城を中心とした琉球王府時代の城下町として形成された地域で、現在でも石畳道、屋敷囲いの石垣、井泉等が残されており、往時の町並みの様子を垣間見ることの出来る地域です。ちなみに町内には世界遺産にも登録された国指定の史跡「玉陵」

(たまうどうん)をはじめとして、同じく天然記念物「首里金城町の大アカギ」、県指定史跡・名勝「首里金城町石畳道」や市指定の史跡である「金城大樋川」(かなぐすくおおひーじゃー)、「仲之川」(な一かぬかー)、「潮汲川」(うすくがー)、「新垣ヌカー」等、多くの文化財物件が所在します。

地形的にみれば琉球石灰岩で形成された首里台地南側の丘陵縁辺部にあたり、南へかけて階段状に傾斜していきます。

琉球石灰岩の下には基盤として島尻マージやシルト岩(クチャ)が広がっており、上部の琉球石灰岩に浸透した水は地下で不透水層であるこれらの基盤の間を流れていきます。先の井泉もこのような地形で生まれた水路を利用して作られたものです。

2 街路事業について

上記のように首里金城町は歴史的に優れた景観の保全された市内でも数少ない地区ですが、それゆえに車輛等の進入が規制されるなどの様々な不都合も生じています。

このような課題を解消するために那覇市ではかねてから町内を循環する生活道路整備が進められてきました。それが、先に完了した金城東線と、今回の「金城西線街路整備事業」です。整備を進めるにあたっては、同地区が多くの文化財を包蔵するところであることに鑑み、那覇市教育委員会との埋蔵文化財の確認および取り扱いについての協議を行い、事業の工事实施に先立って発掘調査業務を行うことになりました。

3 発掘調査の概要について

発掘調査は平成14(2003)年度より開始。毎年順次調査を進めています。今年度を含めてこれまで五次に亘る息の長い調査です。

ここでは発掘調査業務の中間報告として各年度の調査の概要についてみていきます。

第一次調査(平成14・2003年度)

街路予定地内の北側箇所を対象に実施しました。調査地は集落の西側に位

置します。

集落内を走る路地の北側に面した三軒分の屋敷に伴う石垣による区画を検出しています。同地のそれぞれの屋敷区画内は戦中戦後の攪乱や戦後建てられていた民家の撤去時による改変が著しいことが分かりました。石垣そのものは一部に崩落や積み直しもあるものの、比較的よく残っていました。屋敷と屋敷の間には丘陵上(北側)からの水を流す石組の水路も検出されています。また調査区東側の路地では石畳を検出しています。

第二次調査(平成15:2004年度)

街路予定地内の東側、町内を東西に横断したルートが南側へと向きを変えて斜面に沿って降り、再び西へ方向を反します。調査区はその縦断するルートとそれに隣接する南東隅の交通広場(駐車場)予定地部分を対象に行いました。

街路のルートそのものは既存の路地をほぼ通るかたちで延びているので、調査はその路地の石畳と隣接する民家の石垣の測量実測作業がメインとなりました。

一方交通広場予定地では、調査範囲が比較的まとまった面積であったことから、屋敷跡のほぼ全域を調査することとなりました。発掘の結果、同地は

本来傾斜部であったものを切り土や盛り土造成をして平場とした様子が窺えました。敷地の出入り口は敷地北東側で、路地から緩やかなスロープ状の階段が設けられています。屋敷跡では建物の礎石や軒を囲む敷石が検出されています。屋敷は南向きだったと考えられます。また敷地の東南隅では石組のフル(豚小屋兼トイレ)が検出されています。飼育場は三つに区切られており、人が用をたすための便座や便壺もありました。

北西側では石組で作られた井戸があります。取水口はアーチに組んだ丁寧な作りです。

先のフルは、伝統的な家屋の配置では通常母屋の、向かって左奥に位置するのですが、ここでは右手前となっています。これは井戸のある場所から遠ざけたためだと理解されます。

建物跡の層準からさらに下部を掘り進めたところ、16世紀以前のものと思われる遺物を含んだいわゆる遺物包含層の堆積がみられました。

この層からはグスク土器と呼ばれる沖縄産のグスク時代の土器、中国産の青磁・白磁・青花・褐釉陶器等の出土がありました。また地山(クチャ)には掘立柱の一部とみられる掘り込み等が検出されています。

他方、本年度から資料整理作業を開始しました。これは発掘調査で得られた資料（出土した遺物や実測した図面など）を分析する作業です。

前年度に調査した遺物を洗浄、ナンバーリング（遺跡名や出土地点等を遺物に注記する）する作業を行っています。

第三次調査（平成16：2005年度）

前回の調査箇所からさらに西に、調査地でも最も西に位置しており、本来の村の西の端にあたりと考えられる箇所です。

ここでは当初屋敷等に伴う近世の遺構の検出が期待されましたが、明確な遺構は見つかりませんでした。ただし土層の堆積では、しまりはあまり良くないのですが16世紀以前のものと思われる遺物包含層の広がりが見られました。この層からは石斧やグスク土器、中国産の青磁や白磁、青花や褐釉陶器などが出土しており、また、掘立柱の跡とみられる掘り込みも検出されるなど、ここでも近世以前の集落の痕跡を見ることが出来ました。上部の土層からは喜名焼、湧田焼、壺屋焼等、近世以降の沖縄産の焼物が大量に出土しています。

資料整理業務では第一次から今次分を含めた遺物洗浄・ナンバーリング・接合（割れている遺物を繋ぎ合わせる）・分

類（遺物の種類分け）・集計を行っています。またこれらのうち一部については実測を行って図化しています。

第四次調査（平成17：2006年度）

街路工事に伴う保育園建替えにかかる遺構の調査を実施しました。

保育園後方（北側）の路地および石積みについて、根石部分の掘り方と写真撮影等を行っています。

資料整理業務は、前年度からの作業を継続して行っています。

第五次調査（平成18：2007年度）

第三次調査実施箇所の東隣での調査を行いました。ここでは戦後建てられた住宅の攪乱を免れた箇所から戦前まで建っていたとみられる住宅伴うとみられる集石や石敷きを確認しています。集石は琉球石灰岩のぐり石を円形に敷き並べたもので、建物の柱の土台となる礎石を支えるための根固めです。それぞれの間隔は等しくて、建物のおおよそのプランが想定されます。また石敷きは建物の軒を取り巻いていたとみられるものです。

壺屋焼や湧田焼などの沖縄産陶器や灰色・赤瓦、その他本土産陶磁器類等が多量に出土しています。

資料整理としては、三次調査分までの遺物の分類や集計作業を行っており、そのうちの一部については実測作

業も行っています。また、今次の調査で出土した遺物の洗浄・ナンバーリングも行いました。

4 おわりに

これまでに得られた資料は現在分析中ですが、分かっている成果について触れておきたいと思います。

遺跡の所在する場所は最初に触れたとおり、首里台地の南の縁にあって、傾斜地での集落形成の際の造成の跡が読み取れます。

今に見る石畳道や各屋敷を囲う石垣の造作の様子から考えると集落の造営はまず斜面を降りる街道があって、それを基点に周辺を階段状に造成して同様に道を開き、各段には居住地を区画しさらにそれらを道で繋いでいます。居住区は石垣を廻らし個別の屋敷とし、石垣は斜面の上段から順に下段へと造営、つまり斜面の上位から順に下位へと屋敷が造営されていったようです。実際に発掘調査ではそれぞれの屋敷内の平場は斜面上位を切り土し下位に盛土して整地しており、石垣は地盤の安定した地山から立ち上げ、隣の上位の屋敷囲いの石垣に擦り付けてして積み上げた様子が確認されています。

近世以降の遺構に隠れて分かりにくいのですが、地山に掘り込んだ掘立柱

穴跡なども検出されています。通常建物を作る場合、整地面上に建物を支える柱を据える礎石を敷くのですが、地に柱穴を掘り込む手法はグスク時代以前の建物に見られる特徴です。

遺物を見てみると、近世以降の沖縄や本土の焼物が大多数を占めています。仔細にみれば近現代に至るまでの遺物がありますが、現在も連綿として集落として存在しているのですから当然ではあります。これらの遺物のほかグスク時代に遡るとみられる遺物もあります。グスク土器や中国製陶磁器類がそれです。先の遺構でみた柱跡などはこの時代のものと考えられます。

してみると、首里城から南部や那覇港南岸への交通の要衝であるルート沿いにあったこと、生活に不可欠な水が豊富にあったこと等が大きな要件となって、むらとしての成立は思いのほか早かった事が分かります。

道を中心にさまざまな変遷を経てきた「首里旧金城村」。街路事業ではこれまでも真珠道線のシマシビーラ、寒川線、金城東線、首里城線の四路線の道路整備を行ってきました。そしてむらにはまもなく「金城西線」が通ります。これからの生活の発展に供するものとして、これからの地域の新しい歴史をみていく事でしょう。

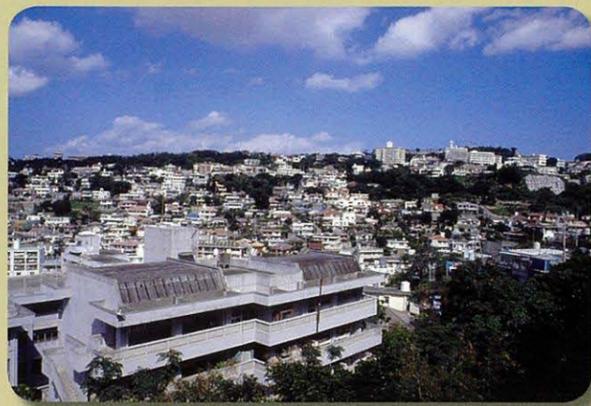


写真1 遺跡の遠景

写真2 調査の様子（第一次調査）



写真3 調査の様子（第一次調査）



写真4 調査の様子（第二次調査）



写真5 調査の様子（第二次調査）

写真6 調査の様子（第二次調査）



写真7 調査の様子（第二次調査）



写真8 調査の様子（第三次調査）





写真9 調査の様子 (第三次調査)

写真10 調査の様子 (第四次調査)

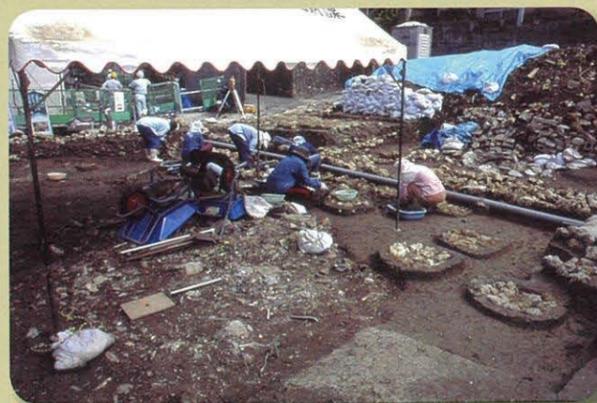


写真11 調査の様子 (第五次調査)

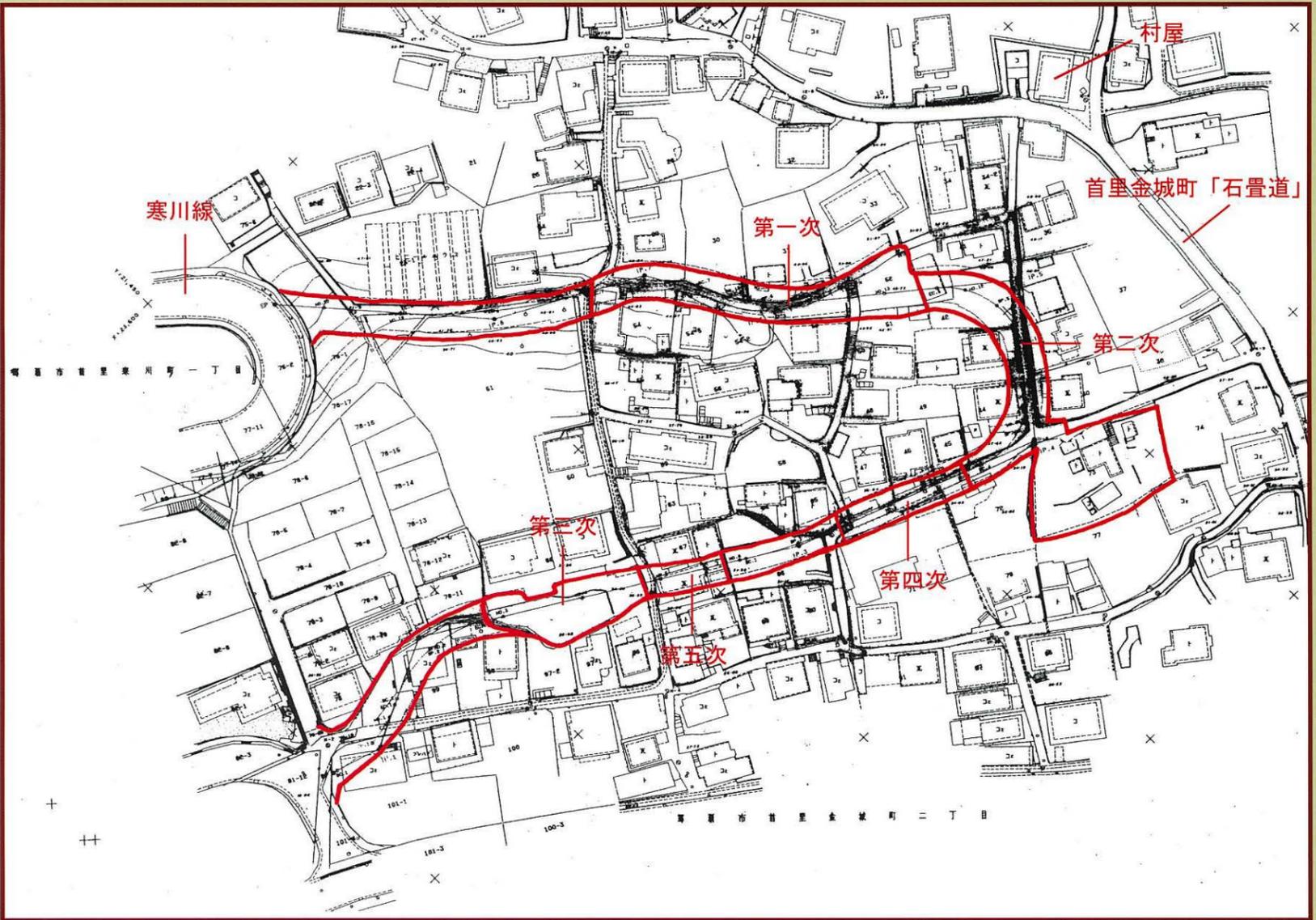
写真12 調査の様子 (第五次調査)



第1図 遺跡の位置



第2図 首里古地図において想定される金城西線の位置



第3図 金城西線の年次毎の調査範囲